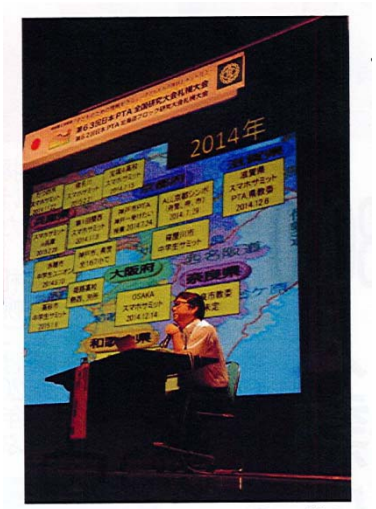
第 63 回日本ＰＴＡ全国研究大会札幌大会に参加して



特別第２分科会　講演する竹内和雄氏

8 月 21 日･22 日に第 63 回日本ＰＴＡ全国研究大会札幌大会が開催された。分科会は、研究課題「子どものための情報モラル」～子どもたちの現状とネット炎上～文部科学省協力による特別第 2 分科会に参加した。

兵庫県立大学准教授竹内和雄氏の基調講演ではスマホの現状と問題点などの話から、対策を変える必要性「所持禁止→ルールづくり(大人)→ルールづくり(子ども自身)」を考えさせられた。最先端の取り組みとして、子ども自身に考えさせる活動「スマホサミット」があることを知った。

分科会後半では、2 つの事例発表とパネルディスカッションが行われた。

事例発表から、「変えたいのは意識ではなく行動」、「子どもを守るのではなく子どもを育てるべき」、このことを目的に情報モラル教育やどさんこアウトメディアプロジェクトを推進活動されていた。

パネルディスカッションの中で、ルールのギャップがあり、子ども自身にそのルールを具体的に言わせ･書かせ、また、守れなかったらどうするのか？ペナルティを実行しない親が多く、携帯･スマホを破壊するくらいの勇気が必要とパネリストからの意見もあった。親がいつも子どもの日常を把握し、人間フィルタリングが大切な事やスマホの問題は心の問題であり、大切なのは心を育てることの重要さを感じた。パネリストから市ＰＴＡ連合会と教育委員会が中心となって設立されたボランティア団体、広島市電子メディア協議会の出前講座の取り組みに注目した。啓発活動を継続し、市･県レベルでの広域的に組織を考え活動する必要性があると思った。

大会 2 日目の全体会では、「あなたは子どもたちの想像力を育てていますか」と題し、倉本聰氏の記念講演があった。講演早々、小学生 4 年生で特攻の希望をとられたと言う戦争体験の話から始まった。2 人、3 人は出なく(特攻に希望しなく)その人たちを誰かが「卑怯者」と呟いたらしい。しかし、本当の卑怯者はどっちなのか？同じ行動をしないと嫌われる、そんな想いがあったようだ。いじめの四層構造の傍観者と同じではないかと感じた。戦争体験から物の大切さ、相手を想う気持ちの大切さを改めて感じた。

今、子ども達は闇の恐怖を知らない。電気や少しの明かりがあるから歩けるけど、全く明かりが無ければ歩くことも出来ない。そんな危険な事を保護者が教えないといけないのにもかかわらず、スマホ等を平気で子どもに与える。

文明の進歩で子ども達の心がついていっていない。子どもが生きると言う事を原点でものを考えておらず、原点からものを考えないと間違いが起こる。子どもを育てる為に、親の責任を果たさないといけないとも言われた。

今回の大会は、基調講演、パネルディスカッション、記念講演と大変有意義な研修であった。この研修で得た事を、多くの人に伝え、実践していくことが必要と感じた。

松江市ＰＴＡ連合会　会長　池田知弘